



医学部長就任にあたって

医学部長 原田 康夫

この度、私は、はからずも医学部長に選任されました。大変責任の重い仕事ではありますが、関係各方面の御協力のもとに広島大学医学部の発展のためにこれからの2年間全力を尽くしたいと思っております。

現在、臓器移植の問題が社会的にクローズアップされ、心臓、心臓、肝臓の移植が現実化されようとしています。すでに欧米では多くの臓器移植が行われていますが、我が国では脳死の問題を含めて倫理面の問題がまだ解決にいたっていません。広島大学医学部倫理委員会ではこの問題について精力的に検討がなされています。しかしながら、移植が実際に行われるようになったとしても、社会保険が適用されていないことなど、いろいろな面で多くの問題があり、学部をあげての支援体制がとられることが望ましいと思われま。さらに移植に伴う周辺医療の充実が大切で、ぜひとも医学科の基礎及び臨床並びに総合薬学科を含めて基礎的研究の振興を図らなければならぬと思っております。

今や日本の大学には国際化が求められていますが、我が広島大学医学部も留学生の受け入れに対する何らかの策が必要となって来ています。欧米の大学との学部間交流なども順調に進んでおり、すでに8大学との学部間協定がむすばれており、さらにこの5月にはノーヴァー医科大学との大学間協定が整うことになっています。しかしながら、欧米以上に日本への期待の高い中国、その他のアジア各国からの留学生の受け入れが急務であります。現在、医学部においては各講座の計画の下にこれらの地区からの留学生を受け入れていますが、留学生のよりよい滞在条件と一層

の研究成果をあげさせるために、医学部全体としての受け入れ体制を整えるべく経済面も含めて我々医学部全員で考え、何らかの方針を立てなければならぬと思っています。

次に、学生の教育に関しては、医学部では早くからスライドを利用した教育が行われていますが、最近ではVTRによる教育も普及しています。これをさらに一歩進めて学生の医学教育にハイビジョンを導入してはどうかと思うのであります。すでに広島市では健康増進のための市民教育にハイビジョン利用の構想がもたれており、医学部にも協力が求められています。ハイビジョンは現在のVTRとは機器、装置が全く異なるために大変高価なものとなりますが、今から導入準備をしておけば、より精度の高い医学教育と医療面への利用ができるものと思っています。

一方、震地区再開発の一環として病棟の新築構想は昭和62年当時すでにソフト面ができております。しかし、これを現実化するにはまだ種々の工夫と手続きが必要のようです。今後、震地区部局長連絡協議会等において協議のうえ、附属病院長との緊密なる協力のもとに病院再開発にも手をつけていかなければならないと思っています。

なお、大学院医学系研究科の拡充・改組の問題や延び延びになっている医療技術短期大学の創設、RI研究棟、動物実験施設棟の早期整備など従来からの多くの件案事項があります。これらにつきましても、大学全体のコンセンサスを得ながら、実現への努力をしなければならぬものと思っています。

重ねて、関係各方面の皆様御協力を心よりお願いする次第であります。